縄文のみちの

野鳥

大田区は公園や住宅地でも一年を通してたくさんの野鳥を見ることができる。とくに縄文のみちでは、スズメやムクドリ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどの身近な鳥たちや、秋から冬にかけてはジョウビタキ、ツグミ、シメなど冬鳥も多く観察できる。また、区の鳥に選定されているウグイスの鳴き声を聴くことができる。

シジュウカラ

スズメより少し小さく、胸にはネクタイのような黒帯がある。春、木のてっぺんで「ツピー、ツピー」とさえずるのがよく聴かれる。

キジバト

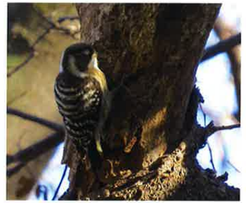
ドバトより少し小型。全体に薄い茶色で、翼にはウロコ模様がある。首には青い斑点がある。「デ、デッ、ポッポー」と鳴く。

ムクドリ

スズメより大きい。全体に黒く見え、顔が白く、くちばしと足がオレンジ色。飛び去るときに腰の白が目立つ。地上をノコノコ歩いてえさを探しているところがよく見られる。

メジロ

スズメより小さな黄緑色の鳥。名前のように目の周りに白い輪がある。鳴き合いながら数羽の群れで木々の間を移動していく。



コゲラ

スズメくらいの大きさのキツツキで体に白と黒の横じまがある。「ギー」ときしるような声で鳴く。木の幹に体をつけてスルスルと登っては止まる動作をくり返す。

シロハラ

ムクドリくらいの大きさで、全体に茶色であまり目立たない。目の周りに黄色の輪があり、足が黄色。冬に林の落ち葉の下のえさを探している姿を見ることができる。

知ってた？プチ知識

寄り道してみませんか？

縄文のみちから池上駅に向かう途中にある呑川。川沿いをちょっと寄り道して、橋の上から川をのぞいてみよう。白く目立つ鳥がいるはずだ。小魚を狙うコサギや尾羽を上下させながら歩き回るハクセキレイだ。カルガモに加えて、冬にはコガモ、ヒドリガモ、マガモなど多くのカモも見られる。

縄文のみちの

その他の生物

豊かな多様性に富んだ常緑広葉樹の森は、狩猟採集生活をしていたころの人間にとっても大切な場所であった。そして現在、森が失われ、すみかを追われる多くの生きものたちにとっても大切な場所になっている。

オカダンゴムシ

子どもたちのアイドル的生きもの。小さい頃はとにかくたくさん集めることで楽しみ、小学校に入ると飼育して、観察をする子どもも多い人気者。さわると丸くなるダンゴムシと丸くならないワラジムシがいる。

アブラコウモリ（イエコウモリ）

夜行性で、大田区内では夏、多摩川、呑川など水辺近くのほか住宅地でも上空をひらひら飛んでいるのがよくみられる。

アズマヒキガエル

産卵時期以外はほとんど水に入らないので、大田区の住宅地でも見られる。夜行性で、動作は緩慢。ミミズ、ダンゴムシ、ゴキブリなどを食べている。

アオダイショウ

日本で最大のヘビで、大きいものは2m以上になる。体色は褐色をおびたオリーブ色。昔、農家ではネズミを捕るので大切にされた。最近は緑の多い住宅地、緑地公園でも見られる。

ちょっと寄り道

縄文時代から弥生、古墳時代をタイムトラベル
永寿院万両塚

縄文時代の植生を残す森を見た後は、五重塔の南東にある永寿院万両塚へ足を延ばしてみよう。ここには弥生時代の住居跡の遺跡があり、さらにその隣には古墳時代の古墳跡がある。古代の歴史を歩いてたどれるエリアである。さらに、江戸時代へとタイムトリップすると、まわりに掘割を配した万両塚がある。墓所の詳しい解説板もあるので、池上の歴史を学んでみてはいかがだろうか（見学のための公共施設ではないので、寺院、参拝者の迷惑にならないようマナーを守ろう）。

大田区自然観察路『縄文のみち』の生物・植生 ～池上本門寺周辺～

発　行／平成27年3月 大田区環境清掃部環境保全課　4月より大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課
編　集／（一社）地域パートナーシップ支援センター　デザイン／松井由莉
写　真／小野紀之（地域パートナーシップ支援センター）、鈴木百合子（多摩川とびはぜ倶楽部）、増田直也（環境省環境カウンセラー）
※このパンフレットは区民協働調査を基に、区内環境団体と協働で作成したものです。

大田区自然観察路

学びながらぶらり散策

「縄文のみち」の生物・植生

～池上本門寺周辺～

大田区自然観察路「縄文のみち」は、本門寺公園、池上本門寺社寺林、池上梅園をめぐるコースである。

池上本門寺は、千束から池上に続く台地の南東端に位置し、標高20数mの高台にあり、本門寺を中心とする東西約500m、南北約700mの区域には、台地を取りまく急な崖線があり、数多くの坂がある。隣接する本門寺公園も元々は本門寺の一部だった。

この地の歴史は古く、縄文時代から弥生時代まで考古学上注目すべき貝塚、住居跡などの遺跡が散在し、古墳時代に入っても横穴古墳などの遺跡が集中してある。しかし、池上が歴史上で最も脚光を浴びるのは、1282年、日蓮がこの地で入滅し、領主の池上氏が邸地を寄進し池上本門寺が創建されてからである。それ以降、とくに江戸期に徳川家や諸大名の保護を受けて大きく発展してきた。

このように急な崖線と寺院、墓地などが広い面積を占めるために、自然に近い森が残されており、大田区で最大のまとまった樹林帯を形成している。とくに常緑広葉樹のスダジイ、カシ類の森は、いわゆるどんぐりの森で豊かな生物多様性を維持するとともに、環境上や防災上の多くの機能を果たしている。